

DX 今物語

22

重要な社内会議の議事録やお客様との商談記録など、皆さんはどのように残されていますか？メモや記憶を頼りに、元の時間以上かけて書き起こしているのでは？



◇まつお・ゆうき 入社以来、音声技術を活用した顧客接点ソリューション業務に従事し、録音・認識システム導入案件を多数経験。N.T.T.研究所技術をベースにした高指向性小型マイクの商用化につき、企画から開発・生産まで一貫して主導。

N.T.T.アドバンステクノロジー
Value Co-creation事業本部
ビジネスリレーション第三部門

主査 松尾 祐記

オンライン会議が日常となり、数年が経ちましたが、今の行動制限緩和により、徐々に対面での会議や商談が増えつつあります。しかしながら、録画ツールが使えるオンライン会議と異なり、リアルな対面での会話やテキスト化することはな

かなか容易ではありません。

時間ができたら……と思っても忙しさにかまけて後回しになりがち。意を決して書き始めた時に限って上司から「あの商談報告は？」と問われ、「実はまだ……」といった苦い経験は私だけではないはず。そんな課題を解決し、議事録・

対応記録作成作業を大幅に効率化するDXソリューションが今まさに生まれようとしています。

人間の声をコンピュータが理解してテキスト化する音声認識の精度は、AI技術の進歩とともに近年著しく向上しています。皆さんも、スマホのバーチャルアシスタントや音声で家電を操作するスマートスピーカーなどで実感されていると思います。これらは「Hey○○」などのウエイワードに続いて短い

議事録作成作業なくす新技術

文章を発言する、発話者は一人など限定的な条件下でのもの。それに対し、長時間・複数人での会議や商談のシーンでは音声認識の難易度が格段に高まります。

いくら優秀なAIをもってしても、議論が白熱して複人数の発言が重なった音声ソースからでは正確な音声認識（テキスト化）をすることは難しいとされています。

この問題を解決する画期的なデバイスが、N.T.T.研究所で長年培った音響技術に基づいてN.T.T.ATTが開発した多指向性小型マイクモジュール「Voice Compass」です。

1台のマイクで12方向の音を識別できますので、AIと組み合わせることで、これまで困難であった発言者を明確に分離した上での音声認識が可能です。

この度、当社と株式会社

オルツは共同で、「会議終わりにもう議事録」を実現する「AIGIJIRO KUMAX」β版を開発し、実証実験を開始しました。

現状での認識精度は95%以上、今後一層の精度向上とともに30カ国語にも対応する画期的な自動議事録サービスを目指します。参加者の誰もがメモを取ることなく会議に集中でき、終了後には議事録ができあがっている、そんな夢のような世界がすぐそこまで近づいてきています。

ところで、金融機関のカウンターなどにおける対面録音用として好評の高指向性小型マイクFR1000は来月、省電力化（一部端末での補助電源不要）やノイズキャンセリング性能などを高めた「FR1100」に生まれ変わります。どうぞご期待下さい。